

2024年度学校自己評価報告書(香里ヌヴェール学院小学校)

学校目標	カトリックの宗教的な価値観を基盤として、人を愛し、自らを高める強い意志と、豊かな子ことを持つ子どもを育てる。 「多様な価値観の中で、平和を軸に問題意識を持つ」「地球上の仲間と共に生きる責任感に目覚める」「痛み・喜び・悲しみに寄り添い、成長を分かち合う」の3つの力を育成し、カトリックの精神に基づいて平和な社会を作り出す子どもたちを育成する。
------	---

対話や表現力を育てる探究 (PBL) 授業	新しい社会を創造するために課題解決力を身につける探究 (PBL) 型授業の実践
英語教育	英語運用能力を基礎から段階的に培う週4時間の英語授業 (SSC) 複数教科の授業を英語で行うイマージョン教育の実施 (SEC)
ICT教育	高度情報化社会に対応する能力を育むICT教育。

重点目標	取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
教育充実 【探究 (PBL) ・英語教育・ICT教育】	1.対話や表現力を育てる探究 (PBL) 授業	1. 探究 (PBL) 授業 ・各教科内におけるペアグループによる探究型教育の成果があったか。 ・学年進行に合わせた探究 (PBL) の導入・実践ができたか。 ・児童の発言や興味を活かした授業を展開したか。 ・ノート、スライド、作品などの学習記録を残し、自己評価や相互評価ができたか。	・生活科及び総合的な学習の時間を中心とした探究 (PBL) と、教科学習での探究 (PBL) と位置づけ、日常の授業においても各単元の要所に探究的な学びを取り入れることを意識した。 ・各教科で探究的な学びを意識して取り組めるよう、「教科における探究学習」について、研究部のプロジェクトを中心に教材研究や実践を行った。教員研修において、その実践を報告、フィードバックを行った。 ・低学年においては、日常の対話を通したクリティカルな授業とリフレクションをくりかえし、探究学習の土壌となる授業づくりに努めている。また、高学年では、自分で課題をもち、探究し、まとめ、プレゼンテーションをする学習形態の実施によって、思考力が高まるように努めた。 ・4年生では、キャリア教育を実施。外部講師や保護者から、「しごと」についての講演を聞き、将来の夢や働くことについて考える機会を設けた。また、3学期には「京都橋大学探究ツアー」を実施。建築、看護、救急、教育などの分野の大学教員による小学生向けの授業を展開していただいた。 ・5年SSCを対象に、外部講師と連携し、「社会とつながる」ことを目的とした実践を行った。これまで合宿で訪れた都道府県の魅力を再発見し、その地域を盛り上げるための「チャリティー物産展」を実施。参観日に保護者にも購入していただき、売り上げを地域振興のために寄附した。 ・今後は、これまで取り組んできた「PBL学習」を「探究学習」と位置づけていく。
	2. 英語教育	(SEC) ・イマージョン授業の円滑な導入と実施ができたか。 ・複数教科を英語で学び、基礎学力を身につけることができたか。 (SSC) ・英語教育の充実を図ることができたか。 ・英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができたか。	・全学年でスーパーイングリッシュコース (SEC) とスーパースタディーズコース (SSC) の2コース体制を実施。 ・SECは、外国人教員と日本人教員2名担任制を実施。 ・60%を越える授業を英語で行うイマージョン教育を実施。(国語・社会・特活・宗教を除く) ・SECは、TOEFL Primaryを全員受検し、英語運用能力を指標として確認。(SSCは希望者が受検。) 特にSECは、英語運用能力が高いレベルに推移している様子が評価できた。 ・2024年度6年生より、オーストラリアパースへのホームステイ (希望者) を実施。6年間で身に付けた英語力を存分に発揮することができた。 ・SSCは、週3時間+モジュールタイム10分間×4回の英語授業を実施。 ・英語の授業は全て外国人教員と日本人教員の2名担任制で実施しており、英語の授業以外にも、外国人教員と日常的にかかわることができている。 ・3年生以上の希望者は、TOEFL Primaryを受検。 ・2025年度入学からのSEC募集停止に伴い、英語教育の再構築を目指す。低学年を中心に、英語科において新たなカリキュラム作成に着手。 ・英語に興味を持ち、中学進学の際も、英語を重視した学校選びをする児童が増えてきている。
	3. ICT教育 (オンライン学習)	・ICT機器 (iPad/Chromebook) を学習場面で使用できたか。 ・授業の中でICTを活用して、効果的であったかを振り返り、授業の改善に活かすことができたか。	・SSCはChromebook、SECはiPadと、1人1台環境、全教室のBig Padを整え、使用している。 ・全学年でロイノートを使用。児童の発達段階に合わせて、授業や諸活動に使用。 ・これまでの低学年からのタイピング練習により、タイピングの速度も上がっている。高学年では、ほとんどの児童がブラインドタッチで入力できるようになっている。 ・全学年でCanvaを導入。全児童の使用が可能。ポスター作りや、プレゼンテーションなど、児童が用途に応じて使い分け、活用している。
教育のレベル向上	各種研修	・建学の精神、教育目標に基づき、実現を図る観点や方法を理解できたか。 ・各種研修を受け、授業改善・授業力向上に活かすことができたか。	①英語教育 ・SEC部会、英語部会におけるイマージョン教育や英語教育の研究と実践の共有 ・「これからの英語教育」(外部講師) ②探究型教育 ・教科における探究学習の在り方の検討と実践。 ・本校の探究学習で目指すもの (伝達研修) ③ICT教育 ・ICT支援員によるChromebook、Googleclassroomその他アプリの活用法の研修。 ④宗教教育 ・神父様による年間を通して複数回の、全クラスでの宗教授業の実施。 ・「ミッションスクールにて、私たちがするべきこと、できること」(神父様による研修) ⑥初任者研修 ・初任者指導、初任者による模擬授業、実践交流の研修会実施。 ⑦西日本私立小学校連合会主催の研修会 (春・秋)、その他自主的に様々な教育研修会に参加。
教育環境の整備	安心・安全な環境の構築	・施設・設備の整備に努め、環境美化に努めたか。 ・不審者の侵入を未然に防止するため、施設の配置や防犯対策ができたか。 ・安全点検を定期的に行い危険箇所を見つけ整備することができたか。	①設備の点検と改修 ・和式トイレの洋式化 ・体育館照明のLED化 ・体育館カーテンの新調 ・小学校D棟1階南側扉改修工事 ②防災・防犯設備 ・中学高等学校とともに、守衛体制の強化 ・小学校クロックルーム防犯カメラ修理 ③月に1回の学校安全点検を実施し、修繕が必要な箇所は早期に対応している。

学校関係者評価	制服や制靴の価格や品質について、コートやランドセルの使いにくさ、校内着Tシャツの品質など指定品への改善要望が多く寄せられた。一部を改善する方向で動きたい。校則については、女子の髪型や変更点の周知不足が指摘された。教育活動面では、全学年での運動会の開催は好評ながら、暑さを心配する声もあった。英語・漢字教育のさらなる充実として検定機会の拡充といった要望もあった。一方で、子どもの個性を尊重する姿勢や、先生方の愛情を持った教育や対応などに感謝の言葉も寄せていただいた。
---------	--